

多彩な知識と実践的能力を身に付け、生活を科学する。

被服製作や調理の知識・技術の修得をはじめ、家庭生活と社会の関わり、保育や社会制度など、家庭科の学びは多岐にわたります。

衣食住、家庭、環境、福祉など、未来に生かせる幅広い範囲の「生活」について総合的に学び、教科としての「家庭科」の教材研究・開発能力を持った教員を目指します。

詳細はコチラ



[4年間の学び]

家庭専修で学ぶ専門科目は、「家庭科教育」、「家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む）」、「食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む）」、「被服学（被服実習を含む）」、「住居学」、および「保育学」の6つの領域から構成されており、1年次前期から一部の講義で履修が始まります。実習授業も多く、1年次後期には「調理実習Ⅰ」や「被服実習Ⅰ」があり、いずれも必修科目となっています。さらに、2年次以降で選択科目を履修することにより、専門性をさらに高めることも可能です。3年次になると研究室を選択し、指導教員のもとで卒業研究のための準備がスタートします。そして4年次には大学での学びの集大成として、卒業論文の作成に取り組みます。

取得できる免許

【卒業要件に含める免許状】

小学校教諭一種免許状
中学校教諭二種免許状（家庭）

【取得を優先して薦める免許状】

中学校教諭一種免許状（家庭）

【所定の科目履修で取得可能とする免許状】

高等学校教諭一種免許状（家庭）
◎幼稚園教諭二種免許状
◎特別支援学校教諭二種免許状

◎の免許状は、いずれか1つを選択し取得を目指すことが可能です。



被服実習Ⅰ（1年次後期）



調理実習Ⅰ（1年次後期）

先輩 Voice

学校教員養成課程 義務教育専攻 家庭専修 4年
愛知県立五条高等学校出身



自立して生きる力を育てる

家庭科教育を

「楽しい」だけで終わらせない授業に

今日の社会では、「生きる力」を育てることがますます重要になっていると感じます。家庭科は生活スキルだけでなく、家族との関わり方やお金の使い方、災害時の備え、将来のライフプランなど、誰もが生きていく上で欠かせない力を学ぶことができる教科です。特に印象に残っているのは「災害時」を想定した調理実習です。限られた水や調理器具、保存食などを使い、栄養バランスも考えてメニューを立てる工夫が求められ、実習を通して社会と家庭科のつながりを強く感じました。将来は、生活に直結する内容を楽しく分かりやすく伝え、自立して生きる力を育てられる教員になりたいです。

■ 私の時間割（2年生前期）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限	初等算数科教育内容A	家族論	初等家庭教育法B	初等理科教育内容A	ポルトガル語Ⅱ
2時限	初等図画工作科教育内容A		初等国語科教育法A		
3時限	教育システム論	英語コミュニケーションⅡ	この時間を使って「学校体験活動Ⅰ」の事前指導やガイダンスを行うことがあります。	生活経済論	
4時限		スポーツⅡ		調理実習Ⅱ	被服学Ⅰ
5時限				調理実習Ⅱ	